

# 平成 26 年度 第 3 回 石狩市社会教育委員の会議 議事録

日 時 平成 27 年 2 月 26 日 (木) 午後 2 時～ 4 時

会 場 石狩市公民館 第 1 研修室

出席者 委員長：木村 純 副委員長：大橋 修作

委 員：高橋 たい子、設楽 正敏、石井 量子、山田 治己、宮田 あゆ美、相馬 保、大黒 利勝、  
古村 えり子、平 紀子、片山 あゆ美、高橋 美恵子

事務局：生涯学習部長 百井 宏己

社会教育課(兼公民館)

：課長 東 信也、主査 斉藤 晶(兼社会教育主事補)、主査 須藤 洋一、主査 富川 雅枝、

主査 寺尾 陽助(兼社会教育主事)、主事 本庄 あゆみ

社会教育主事：西山 隆之(兼社会教育課主任)

傍聴者：なし

## 1、開会

### 開会宣言

斉藤主査：本日はお忙しい中、お集まりいただきまして誠にありがとうございます。定刻となりましたので、只今から平成 26 年度第 3 回石狩市社会教育委員の会議を開催させていただきます。初めに木村委員長からご挨拶いただきたいと思います。

### 木村委員長挨拶

2015 年になってから皆さんにお会いするのは初めてになりますね。今年もよろしくお願いします。私は昨年の末に石狩市の農業のことを勉強しに、花川北コミュニティセンターのイベントに参加してきました。石狩では「札幌大球」という大きなキャベツを作っている農家が 5 戸あるとか、落花生に実験的に取り組んでいる農家もあって、その農家の方たちが作った「蒸し落花生」をおいしく頂きました。3 月 15 日には浜益で、地域おこし協力隊の方々の報告会があるというご案内をいただいているので、当日は浜益に出掛けたいと思っています。

今日は今年度の事業の実施報告なども受けながら、社会教育関係予算や石狩市教育プランについて議事を進めますが、来年度の社会教育委員としての取り組みについても、皆さんからご意見を伺う機会を持ちたいと思っていますので、宜しくお願いします。

## 2、報告

### (1) 研修報告

#### ①第 59 回北海道社会教育研究大会(稚内市)：大橋副委員長

10 月の 16・17 日の 2 日間に渡って稚内で行われた、北海道ブロック大会の宗谷大会に参加してきました。石狩からは相馬委員と私の 2 人で参加させていただきました。

お配りしているレジュメに開催要項がありますが、研究次第は「地域で支える子育て運動の中での社会教育の役割とは」でした。

基調講演は「宗谷の子育て運動～教訓をさぐり、未来につなぐ～」というテーマで、稚内市教育相談所の所長、平間信雄先生が講演されております。YOSAKOI ソーランは皆さんもご存じだと思いますが、「南中ソーラン」

が、どういっかけて生まれたのかという話がありました。南中は生徒指導が大変な学校だったようで、学校と家庭と地域で取り組んだ経緯を話していました。私も学校現場にいましたので、学級の中で困った子がいるという事例はあったのですが、稚内南中学校では、困った子ではなくて、実際には困っている子、困っている親であって、親ともども学校と一緒にあって、子育てをどうするかを考えていかなければ解決できないだろうという事でした。これは今にも通じる話で、参加された方々も頷かれたのではないかと思います。

1日目の午後と2日目、各分科会に分かれて話し合いました。詳しくはレジュメをご覧ください。稚内市では、「子育て平和都市宣言」という形で早くから取り組んでおり、「21世紀を担う子どもたちへの願いを込めて」と宣言をし、各町内会単位で取り組みをしているという報告がありました。2日間大変有意義な大会でした。

### ②平成26年石狩管内社会教育委員会等研修会（当別町）：相馬委員

この研修会は11月27日に当別町で行われました。講師は小山先生という方で、色々な話がありました。私も結構社会教育委員として長くやっておりますが、特に小山先生の話の中で一番印象深かったのは、まちづくりと言ってもなかなか簡単にはできないことだが、それを社会教育委員は、よく考えながらやっていかなければならないということでした。委員としては、地域住民といかに関わりを持っていくかが大切ですが、仕事としてはなかなか取り組んでいけないものですから、少しでも社会教育委員としてではなく、地域住民として関わりを持っていく姿勢が必要だということを、小山先生は特に話されていたと感じました。社会教育委員として地域住民の方と一生懸命やっていくというのも大事ですが、色々な社会教育団体の中で、一個人として常に参加意識をもって活動することが社会教育委員として一番大事であり、それをできるかぎり、正式な会合でなくても、色々な住民の集まる所に自ら入って行って、色々な話をする、聴く、そういうことができるかどうか、小山先生の話聞いて重要だと思いました。

もう一つ、「ゆな〜く」という組織についてですが、由仁町、南幌町、長沼町、栗山町の4つの町が「ゆな〜く」という名前で、社会教育委員として行政に頼らず自主的に活動する組織を作ったのです。この中にはトップとして小山先生も入っていますが、こういう画期的な事を我々もできればと感じました。こういうことができれば、4つの町だけではなく、各市町村同士の関わりを持てるのではないかと感じて帰ってきました。この仕組みは、かなりの効果をあげているそうです。

また、社会教育委員と教育委員の関わりについて、今年は石狩で懇談会を開いたことを小山先生に話したところ、とても大事な事だと言って下さいました。「今の時代、社会教育委員は社会教育を、教育委員は学校教育をやるものだ、という誤った理解を持っている傾向がある。こういう事ではまずい。もっと双方が連携を密にしながら、それを足場にして動くことが大事だ」とおっしゃっていました。私個人としては今回の研修会は、なるほどと思う事が多く、糧になったと思いました。

### ③平成26年度フォーラム石狩（北広島市）：西山社会教育主事

フォーラム石狩は、大きく2つの実践発表と、グループワークという構成で実施されました。実践発表においては、江別市の青少年活動協会の会長さんがお話しをされておりまして、江別市での協会の活動の様子や、シニアリーダーの育成機関として地域に浸透しているという事をお話しいただきました。シニアリーダーというのは、主に高校生・大学生を中心に構成されておりまして、このキャンプに参加した小中学生が、リーダーのお兄さんたちに憧れて、「自分もシニアリーダーになりたい」と感じて、高校生になったら協会に入るといいうサイクルが出来ているという事が特徴だったと思います。

続きましてもう一つ、学校家庭地域のシニア活動の事例として、北広島の小西生涯学習推進アドバイザーのお話がありました。北広島市では中学校区をもとに、4つの地区で振興会があります。この振興会ごとに1人ずつアドバイザーというものを置いております。その振興会の中での課題が、子どもに生活経験・社会経験・コミュニケーション不足が感じられるという事でした。これを解決することを目的として、色々な事業をやっていることが注目になると感じました。実際には事業をやる際に、地域の皆さんにご協力をお願いするのですが、負担が大きすぎると、どんどん人が離れていってしまうので、負担をあまり大きくせずに、いかに魅力ある内容を作るかがこれからの課題である、と話されていました。

その後のグループワークでは、「大人の背中 今、子ども達のために」というテーマで、実際に子どもと関わっている人、また、周りに子どもがいる人達をテーマに討議を行いました。ここで、フォーラム石狩の事業の

位置づけについてご説明します。石狩管内の教育委員会協議会という組織があり、これは各市町村教育委員会と、石狩管内の社会教育委員連絡協議会、地域子ども会育成連絡協議会、PTA連合会、校長会・教頭会など、各種社会教育関係団体で構成されております。この組織の主催事業として、フォーラム石狩と、社会教育関係職員研修という2つの事業がございます。昨年度までは1つの市町村で単独開催して、持ち回りでやっておりましたが、今年度から構成が変わりました。1つの町だけで開催すると、そこだけで完結してしまい、他市町村がお客様になってしまうことから、これはいかなものかという意見がありました。結果としては、石狩管内を3つのブロックに分けました。北石狩・中石狩・南石狩という形で、北石狩は石狩・当別・新篠津、中石狩は江別・北広島、南石狩は恵庭・千歳という体制になりました。この3つのブロックに分けて事業を開催する体制になって、今年が最初の1年目として、フォーラム石狩と社会教育関係職員研修が行われました。今回、ブロック開催になった事によって、フォーラム石狩の主催・進行・企画に多くのが関わることになった事が、重要な点かと思えます。

## (2) 平成26年度社会教育事業実施報告

西山社会教育主事：お手元の資料に加えて、プロジェクターで写真を見ていただきながらご説明させていただきます。まずは、社会教育委員の会議が全3回開催されました。本日の会議の参加人数は13人となります。ご覧の写真は、社会教育委員の会議の第1分科会です。7月、8月の2回に分けて行いました。これは「地域の高齢化と高齢者」、「石狩市のコミュニティの現状」の2つのテーマについて議論していただきました。第2分科会についても、7月、8月の日程で、「皆で考えよう子育て支援」、「地域社会と学校支援」というテーマで、議論していただきました。この討論を基に、今年度、提言をまとめる作業を経まして、10月23日の教育委員と社会教育委員の懇談会において、木村委員長から徳田教育委員長に提言書を手渡されるという形を迎える事ができました。ありがとうございます。

社会教育委員と学ぶ市民講座（浜益区）については11月5日に実施いたしました。これについては後ほど報告書のご説明をさせていただきたいと思えますが、その他各種研修会については資料をご覧ください。先程冒頭でご報告いただきました、稚内大会、当別町の社会教育委員等研修会、北広島市のフォーラム石狩については掲載されているとおります。

成人教育として、成人式をはじめ、学校支援地域本部事業が花川北地区、南地区、あい風寺子屋事業、運営委員会会議という形で展開しています。実施内容については資料をご覧ください。

続きまして文化振興事業です。こちらは市民文化祭の展示部門の様子です。今回、浜益のステンドグラスが出展されました。非常に来場者の反響も大きく、ステンドグラスについての問い合わせも多かったほか、新聞にも取り上げられました。文化祭舞台部門では、伝統芸能や邦楽、洋楽洋舞などが披露されました。

次は情操教育のうち、2つの事業をご紹介します。1つは情操教育スタートプログラム「おしゃべランド」です。これは小学1年生が対象として、絵本の朗読・音楽・照明効果など、複数の要素を合わせて表現して、小学生の心に響くような情操教育として実施しております。事業を実施してから7年目を迎えました。

もう1つは情操教育セカンドプログラム「The Music」です。これは中学1年生を対象として、26年度は厚田区・浜益区の中学校全学年を対象に、厚田総合センターで実施いたしました。これは実際に生のジャズを聴いてもらいます。ジャズのミュージシャンは、掛け合いや、その場のコミュニケーションで演奏します。音楽の鑑賞だけではなく、人と人との、音楽を通したコミュニケーションを感じてほしいというのが事業の狙いのひとつとなっております。また、あい風コンサートという事業も開催しておりますが、実施回数が多いのでご紹介は割愛させていただきます。

続きまして、「俳句のまち・いしかり 吟行会」です。「俳句のまち・いしかり」の大人の部が今年10周年を迎える事になり、記念事業として吟行・句会を開催いたしました。これはその時の様子です。当日は公民館前を出発いたしまして、厚田公園、弁天歴史通り、石狩灯台まで行き、これらを基に句会を実施いたしました。こちらは「俳句のまち・いしかり」の表彰式です。表彰式は例年「鮭まつり」の会場で実施しておりましたが、今回は10周年という事もございまして、是非文化祭の会場で、という意見

があり、花川北コミュニティセンターで開催させていただきました。

続きまして、「いしかり市民カレッジ」についてご説明します。市民カレッジには、主催講座、まちの先生企画講座という2本の柱のほか、特別講座・共催講座がございます。今回は主催講座のうち2つほどご紹介いたします。最初は「村山曜一さんと歩く石狩歴史散歩」で、樽川神社を村山先生のご案内のもと歩きました。続いて「不思議いっぱい石狩川河口」です。写真は実際に石狩川河口の先端まで歩いて行った様子です。私も歩いて行った事がなく、河口は切り立っていると思っていましたが、砂浜になっているのは初めて知りました。

続いて、シニアプラザはまなす学園です。延べ人数は前期・後期合わせて160人となっております。

次は、同じページに掲載されている文化財課の事業のうち、2つほどご紹介いたします。文化財課では色々な野外講座や体験講座、特別展示などを行っておりますが、こちらは体験講座、「勾玉づくり」の様子です。資料館ボランティアの「砂丘の風の会」が中心となり、毎年実施しております。昨年度の第5回目の社会教育委員と学ぶ市民講座にも、パネラーとしてご出席していただきましたのでご存知の方もいらっしゃると思いますが、写真が実際の実施風景です。次の写真は「資料館10周年記念テーマ展」で、川と人と漁をテーマに特別展示をされている様子です。実際に私も行きましたが、常設展を始め、精密な展示が多くありますので、まだ行かれていない方は是非一度お越しいただければと思います。

続きまして、厚田区の事業です。厚田資料室サポートの会の活動がとても活発なのですが、残念ながら写真がございませんでした。写真は「厚田区スポーツと食の体験」の様子です。これは厚田区コミュニティ夢倶楽部という、地域住民の方々が中心となっている団体が開催しており、それに市も共催をしています。スポーツと食をテーマに、6月に望来で開催されました。夏の事業をご紹介しましたので、次は冬の事業です。「厚田区ウィンターフェスタ」として、2月に開催されました。人がチューブに乗るレースもあるようです。

続きまして、浜益生涯学習課の事業から、「生きがいつくり教室」の様子をご紹介します。5月から11月の間で、高齢者の方を対象に、社会見学や映画鑑賞などを行っています。次は、「放課後子ども教室」です。浜益小学校を舞台に各種事業、英語の教室のほか、写真では12月に凧あげをしている様子が写っています。次は図書館事業です。写真は石狩市民図書館まつりになります。

寺尾主査：図書館まつりは2日間あったのですが、写真はスタンプラリーを実施している様子です。テーマが虫と花という事で、ボランティアさんに虫に扮してもらって、このように3人ほど協力していただいております。

西山社会教育主事：これはハチですね。ボランティアの方も楽しんでいらっしゃるのではないかと思います。次は、「第3回石狩調べる学習コンクール」です。こちらは9月～10月に、図書館の資料を使って調べものをして、それをコンクールで表彰するというものです。今年は433作品が寄せられました。続いて、科学の祭典の様子です。市民図書館、子ども未来館を舞台に、色々な個人・団体が科学ブースを出展しております。市民図書館の取組はまだ多数あるのですが、時間の関係上、今の3点のご説明とさせていただきます。

続きまして子育て支援課の事業のうち、2点をご紹介します。ジュニアリーダー・シニアリーダーの養成は、色々なところで展開されておりますが、地域プレーリーダー事業は18歳以上をターゲットとしており、地域の中で子ども達に色々な遊びを教えてくれる大人を、プレーリーダーとして育成するという事業が展開されております。実際には子ども会の関係者の大人や大学生が多く、中には60代の方も参加されているとの事です。

続きまして「子ども未来塾」です。ジュニアリーダー養成講座として開催されており、これは石狩市の市子連と共催して、小学校5～6年と中学校1～2年を対象に開催されています。

続きまして、スポーツ健康課の事業です。その中で「ウオー9の日」という事業が、毎月9日に開催されています。写真は5月に活動した様子です。述べ368人が参加されており、市民の方に浸透している事業としてご紹介させていただきました。その他には「ラジオ体操講習会」があります。一般的には、ラジオ体操は地域で実施しておりますが、今回はNHKの講師が来られたことからご紹介

介しました。その他の各種事業、輪島市との交流などもございますので、詳細は資料をご覧ください。以上で説明を終わります。

### 3. 議事

木村委員長：最初の議題は石狩市教育プランについてです。事務局からご説明をお願いします。

斉藤主査：石狩市教育プランについてご説明いたします。最初に教育プランの概略についてご説明申し上げ、その後に昨年度、社会教育委員の会議において作成いたしました提言書に関する部分をご説明したいと思います。

石狩市教育委員会では、平成14年度から21年度までの間に、石狩市教育プラン初代基本計画を策定しました。市民や市内小中学校、市部局など一体となって、この市教育を推進して参りました。この間に厚田村・浜益村との合併や、社会状況が大きく変化して、平成18年には60年ぶりに教育基本法が改正され、平成19年には教育三法が改正されるなど、大きな変化がございました。この様な背景を踏まえた上で、新たな石狩市教育プランを平成22年3月に策定いたしました。

プランは本市の教育を推進する目標や目指す姿を示す「基本構想」と、実施する基本的な政策等を具体化している「基本計画」の2つの部分で構成されております。基本構想につきましては平成22年から概ね10年間を想定しており、基本計画については5ヶ年を基本計画としております。平成22年3月に基本構想と基本計画の前期を策定いたしまして、平成26年度をもって終了することから、今回改訂をすることになりました。

続きまして、「石狩市の教育の現状と認識」です。社会の現状と認識ですが、プランの基本構想を策定した5年前と比べて、環境問題、食糧問題、少子化高齢化、またライフスタイルの多様化などが進行して、地域社会の人と人とのつながり、支え合いが希薄化していると言われております。教育制度の変遷と現状認識といたしましては、教育基本法の改正、教育三法の改正のほか、平成20年には社会教育関連法の改正、学習指導要領の改訂が行われ、またわが国で初めて策定された教育振興基本計画が、第1期の総括を踏まえて第2期として策定されております。この様に教育を巡る現状といたしましては、絶え間なく大きく変化しております。

次に石狩市の教育の現状と認識については、1つ目は子ども達、2つ目には学校、3つ目には家庭・地域社会の現状と認識について、プランの10ページまで記載されております。

特に申し上げておきたいのが、9ページの「生涯学習について」です。ここでは、市民一人一人が自発的に学び、その成果が適切に評価され、地域社会の発展に活かされる環境づくりが求められており、いしかり市民カレッジにより、市内の学びの環境は大幅に向上したと述べられております。

次に注目していただきたいのが、高齢化や地域のコミュニティの弱体化など、それぞれの地域が抱える課題の解決や、地域づくりを進めるため、学んだ成果や、地域の様々な人材の活用が活かされるシステムの構築が、ますます求められていることから、地域ぐるみの取り組みを支援するとともに、地域リーダーを養成していくことが重要であると述べられています。また、市民の学び活動の拠点となる社会教育施設については、既存の社会教育施設等との有機的な連携を図り、それぞれの年代の市民が多様な形で学び交流できることの充実が求められています。まさにこの部分については、社会教育委員の皆様による提言書を反映した部分でございます。

続きまして、石狩市の教育を推進する方向についてです。プランは基本構想と基本計画の2つの部分で構成されております。基本構想の理念については、11ページにございますとおり、自らの意思を持って学び、成長することに喜びを感じ、かつ思いやりを持って人と触れ合う事に豊かさを感じ、協働により未来の地域社会を担う、「自立する市民」を育む事です。

この基本構想の理念を実現するために、3つの柱を設定してあります。1つ目は自ら学ぶ意欲を育む教育。2つ目は思いやりと豊かな心・健やかな体を育む教育。3つ目が地域で育ち、学び、活きる教育です。

次に第2章、基本計画（後期）をご説明します。基本計画（後期）の中で、石狩市の目指す教育の姿とは何かと言いますと、この地で育てられた事を誇りに思い、ふるさと石狩のプライドを持って歩むことのできる、思いやりと自立した精神を持つ人材を育てる教育です。

2番の、基本計画（後期）は、基本構想の3つの柱を軸として、基本計画・後期を定めました。14・15 ページに施策体系が載っておりますが、3つの基本構想・柱を基に13の大項目、28の中項目、45の小項目に分けて構成されております。16 ページ以降には、大項目の説明・中項目の目的・成果指標や、それぞれに対応する事業の概略について触れています。

では、社会教育委員の会議からの提言がどのような形でプランに反映されているかご説明します。提言された取組は具体的でしたので、小項目の事業の概要に記述されています。提言された取組は多面的な意味合いを持っておりますので、1つではなく複数の小項目の中に含んでいるものもあります。詳しくは33 ページをご覧ください。「望ましい生活習慣定着の推進」の事業の概要に、「児童に対して、あい風寺子屋教室の拡充実施」と書かれております。これは、提言書の「地域ぐるみの学校支援における課題」に対する取組にごさいました、地域と学校の連携により深める取組であり、また、「地域の宝」を用いた取組でもあります。なお、あい風寺子屋教室というのは、学校支援地域本部事業の一環で、放課後、様々な体験活動の場を、地域の方々のボランティアにより実施している事業です。

続いて、市内外の大学生等との協力による、生徒に対するの自主学習支援を通じた家庭学習支援がございます。こちらは提言書の「子育て世帯における課題」に出ておりましたが、取組としては、「子どもに対する家庭学習支援の取組」です。また、市内外の大学生等との取組は、同じく提言書の中の「若者と石狩を繋ぐ取組」の側面も持っています。なぜ「若者と石狩を繋げる取組」であるかと言いますと、石狩市近郊の大学生に、石狩市でボランティアをしてもらい、石狩市に愛着を持ってもらって、将来的に石狩に住んでもらえる若者を増やす、という事を考えています。

「家庭教育の支援」についてですが、事業の概要としては、地域で子育て世帯を見守り支援する環境づくりを推進するため、子育て家庭を対象とした学習支援を提供する、と書いてあります。これは提言書の中の、「子育て世帯における課題」の中の、「子育てをする人を対象とした学習機会の取組」を想定しております。

次に、35 ページの小項目「学校支援ボランティアの活用支援」についてご説明します。事業の概要の中で、学校支援地域本部事業など、学校支援ボランティアの積極的な活用への支援とあります。学校支援地域本部事業の取組は、学校・家庭・地域が一体になり、地域ぐるみで子どもを育てる体制を整え、地域の方を中心としたボランティアにより学校を支援する事業です。例えばグラウンドの除草作業や、卒業式の卒業証書の代筆のほか、小学校低学年だとスキーを履いたり脱いだりするのに時間がかかりますので、それを手助けするボランティアの方がいます。この学校支援ボランティアの積極的な活用の支援については、提言書の中の「学校支援ボランティア確保に向けた調査と取組」を反映しております。

次に、36 ページの小項目「公民館講座等の充実」です。この事業の概要は、高齢者の健康や生活の支援、地域の集いの場の充実というものです。これは提言書の「高齢者の課題」に対する取組を反映しておりますが、内容としては、「高齢者の日常生活を支える取組」や、「高齢者の健康に対する取組」となっています。また、高齢者の集いの場を作る取組については、提言書の「コミュニティの再生への課題」に対する取組で述べられた、「身近な集いの場を作る取組」を反映したものです。この事業のポイントとして、会館などの比較的近い場所、小さいエリアに高齢者が集まれる場を作り、講座を実施し、その一環として生活支援事業もできるのではないかと考えています。

次に、37 ページの小項目「生涯学習支援情報の提供」についてです。事業の概要の2つ目に、社会教育施設等の連携による情報の提供とあります。提言書の中の、「社会教育施設同士が情報を共有するための取組」を反映しております。

最後に、38 ページの小項目番「支援スタッフの充実」についてです。事業の概要の2つ目に、地域課題を解決するため、地域のリーダーやボランティアを様々な機会で養成する、とあります。これは提言書の中の、「ボランティアを養成する」を反映しております。

以上のように、今回改訂された石狩市教育プランには、皆さんが作り上げられた提言書の取組が網羅されております。今後につきましては、提言書の取組が実現されるよう、後期計画の期間である5年間で、事業の具体化を進めていきたいと思っております。

木村委員長：教育プランの中に、私達の社会教育委員の会議が行った提言がどのように反映されているかについて、ご説明いただきました。続きまして、平成27年度主要な社会教育事業について、ご説明をお願いします。

須藤主査：それでは平成27年度の主要な社会教育事業についてご説明いたします。只今の教育プランの3つの柱ごとに事業を分類したのが、資料の「平成27年度主要な社会教育事業の概要」です。

教育プランの一つ目の柱に対応する事業として「学校支援地域本部事業」がございます。二つ目の柱に対応する事業として「情操教育プログラム」、「学校図書館司書配置事業」、スポーツ健康課の「健康体力づくり推進事業」、「2020年東京オリンピック・パラリンピック合宿誘致推進事業」、子育て支援課の「放課後児童健全育成事業」がございます。三つ目の柱に対応する事業として、「生涯学習講座開催費」、「図書館資料等購入事業」、「図書館交流事業」、「子どもの読書活動推進事業費」、「芸術文化振興交付金等」、「資料館管理運営事業」、「鮭の博物館誌刊行事業」、となっております。

続いて平成27年度の社会教育関係事業全体の予算については、資料の「平成27年度社会教育関係予算案」のとおりとなっております。社会教育費が1億9,021万2千円、保健体育費が1億1,771万4千円となっております。なお、平成27年度は市長選挙があることから、当初予算は必要最低限の経費で構成されております。選挙後に、市長の意向などを反映し、補正を行うことになっております。私からは以上です。

木村委員長：議事の「石狩市教育プランについて」と「平成27年度社会教育関係予算案」についてご報告をいただきました。これについて質問はございませんか。

古村委員：最近、就学援助の引き下げについて話題になっています。石狩市でも受給世帯が30%位はありますよね。受給世帯が増えているということは、石狩市民の経済状況が大変な状態にあるのだなと思っております。

質問ですが、今朝の新聞で、生活困窮者自立法に関連して、石狩市が全然取り組んでいないように書かれていました。これだけ事業を行っているのに、この法律の基準に照らすと、取り組みが全然足りないことになっている。これはどうなのでしょう。私は札幌市の生活保護家庭の子どもの学習支援で、学生を派遣しているのですが、子どもに対する学習支援をこれだけやっても、法律の通りにやっていないければ、結果に反映されない事になってしまうのでしょうか。特に生活に困っているご家庭の子どもに対して、という事を表面的に出さなくても、事実上出来ているのかどうかについて、もし分かれば教えていただきたいのですが。

東課長：ご質問についてはおおよそわかりますが、残念ながら社会教育の観点からは、今のご質問には、データなども含め、すぐにお答えできかねます。先程、古村委員からお話しいただきましたように、就学援助も含めて、社会的な情勢から見ても非常に大きい数字ではあります。今朝の新聞は私も拝見しましたが、具体的にどういう事を意味していて、子ども達に対する施策とどういう風にリンクしているか、今はお答えできませんので、詳細を確認させていただきたいと思っております。

古村委員：ありがとうございます。こんなに一生懸命やっているのに、とって質問しました。

高橋（美）委員：「3 生涯学習について」の中に、「既存の社会教育施設などとの有機的な連携を図り」とありますが、文化施設などを新たに作る予定はないから、既存の物を利用してくださいという意味と捉えたのですが、いかがでしょうか。

東課長：そういう意味ではありません。小項目の3、105番「社会教育施設の整備等」として、公民館・学び交流センター・創作の家等、既存施設の良好な環境を計画的に維持することが1つの方向性で、もう1つの方向性として、図書館、資料館等の既存社会教育施設等との連携を図ること、さらにもう1つの方向性として、社会教育総合施設建設の検討があります。具体化はこれからになりますが、5カ年計画の中では、こういう形で検討を進めていきたいと考えております。

木村委員長：施設を建てるという事が明確に決まっている訳ではありませんが、今のご質問で懸念されていたことよりは、もう少し進んでいるということですね。

山田委員：「いしかり市民カレッジの推進・支援について」の事業の概要について質問します。市民団体、NPO法人、公的機関と連携して、と書いてあります。ご存じの通り、市民カレッジは教育委員会と協働で、完全にボランティア体制でやっていますが、ここではどのような事を言おうとしているのでしょうか。市民団体、NPO法人とはどの団体なのか。例えば市民カレッジは100ぐらいの団体と連携していますが、具体的に何を指すのかお願いします。

齊藤主査：公的機関というのは、連携団体の事ではなく、例えば札幌市の「ちえりあ」などのことを指しています。色々な組織と連携してPRしていこうという方向性はカレッジの中でも言われています。

大黒委員：教育プランの中で、社会教育主事の計画的配置と、職員の研修のほか、生涯学習推進アドバイザーの配置について書いてあります。今、石狩は社会教育をすごく頑張っていると思いますので、こういう火を消さないように頑張って推進していただきたいと思います。

東課長：ありがとうございます。非常にありがたいお言葉と思います。生涯学習推進アドバイザーについては、公民館にも1名配置させていただいております。「はまなす学園」という事業を担当してもらっており、大体70人から80人くらいの高齢者の方の学びの機会を、年間15回程度行っております。それ以外にも色々なアドバイスをいただく機会が多々あり、今後とも継続して配置していきたいと考えております。

大黒委員：社会教育関係予算案についてお尋ねします。文化財の方で郷土研究会の予算がありますよね。厚田と浜益には資料館がありますが、これらの予算も含まれているのでしょうか。

東課長：総体として含められています。

相馬委員：事業の概要については継続されるということがわかりました。私たち社会教育委員の取組として、「地域、学校、家庭」については協議したのですが、子どもに関しては具体的にどのような形で事業を考えられているのでしょうか。

東課長：子どもたちの体力向上の関係では、「健康な身体を育む教育活動の推進」という中項目の中で、「体力・運動能力の向上」「健康・安全教育の充実」として、また、「市民皆スポーツを目指した生涯スポーツの推進」という中項目の中で、「子どもたちのスポーツ活動、また基礎体力向上の推進」としてそれぞれメニューを立てています。これまでも学校内外において、子ども達の体力についてはそれぞれ取組を進めてきており、一定の成果をあげてきていることから、それを今後も継続していく、というのが今回のプランになっていると思います。

高橋（美）委員：子どもの体力向上についてですが、子どもが遊べる場所が少ないと思うのです。小さな公園では、大きい子ども達が遊ぶと小さい子ども達が遊べなくなるから、大きい子は我慢してもら

うとか、花などがきれいに植えられていると、花がダメになるからボール遊びはやめましようとなります。学校は部活や団体が使っていますし、一般の子どもたちが遊ぶ場所、思いっきり遊ぶ場所がないですね。このご時世、ジャングルなどが街中にあると何が起こるか分からないという時代ですから、仕方ないで済まされるのか、それとももっと目を行き届かせて、冒険公園のような魅力ある遊び場があれば、「石狩市に住んでみようかしら」と思う若い世代が入ってくるのではないかと感じますが、どうでしょうか。

東課長：「遊び場」というテーマでは、プランの中にはストレートには盛り込めませんが、先程の「居場所」という位置づけもあります。

もう1点、公園でボールが使えない場所もあるという話について調べてみました。正確なデータはありませんが、多くの公園で使えないというイメージを持っていましたが、そうでもない地域もあるのです。実際使えるところもあります。ただ、それは正式に決まっているわけではなく、地域の考え方や条件の中で取り決めを作っているようです。条件は地域によって異なりますし、市が全体的にルールを整理できるかと言うと難しいです。そうなると後は、既存の施設なり場所なりをどのように活かしていくか、という事になると思います。

「居場所」という話をしましたが、やはり放課後にどのように子ども達が時間を過ごすか、それについては、例えば今「寺子屋」という事業をやっていて、学校を借りながら、子ども達が体験ができるような形を取っています。さらに、例えば体育館を使ってできるのかなどという事をこれから考えていかなければならないと思います。

本当に難しい課題で、簡単に答えは出ないのですが、身体を使って遊ぶということは、心と身体にとって大切な事だと思います。ただし、色々な事件や事故があり得る事を考えると、非常に気にしなくてはならない部分も大きいかと思えます。

木村委員長：小学校高学年から中高生の問題については、そういう場所があれば遊ぶのかどうか、ということもあるかもしれません。

高橋（美）委員：お父さんとキャッチボールするような場所がないような気がします。

木村委員長：場所の問題だけではなく、指導者の問題もありますね。勉強優先になって、身体を自由に発達させる取り組みがされない状況もあるかもしれません。そういう世代の課題を考えることも大事ではないでしょうか。

山田委員：社会教育事業の予算案について、社会教育総合施設と、保健体育費の総合体育施設の基本調査事業費が、いずれも26年度に比べて27年度は調査費が0円になっています。これはどのように捉えるとよいのでしょうか。5月に市長選挙があるので、現時点では0円になっているということでしょうか。総合施設は作らないという意味で予算を削っている訳ではないと思うのですが、市では伊達の総合体育館を見に行ったり、色々動いていると思います。先日、体育協会と話した中で、私が生きているうちに建つかどうか聞いたところ、無理かもしれないと笑っていましたが、これを0円にした意味を教えてくださいたいと思います。

木村委員長：昨年度計上されていた調査費が0円になっているのは、調査が終わったからなのか、それとも市長選を前にして、次の新しい市長が判断できるように0円にしているのか。あるいはそれ以外に理由があるのかということですね。

百井部長：私からご説明させていただきます。この2つの事業で予算がついた目的は、それぞれの施設を建てるべきか、そうではないかを、ある程度明確にしていこうということが平成26年度のテーマになっておりました。まだあと1ヶ月くらい期間はあるのですが、スポーツも含めて、今見えてい

る事は、やはり必要性はあり、建てるべきである。しかし財源が課題である、ということになりそうです。したがって、個々の施設をどうするかという議論も大事ですが、この際、もう一度、市全体の施設について考える必要があります。もう使わなくなっている施設もありますから、今後長い将来を考えた時に、必要だけれども一度縮小・統合・効率化した方がよいという施設もあります。また一方で、財政的には厳しいけれども、新しい施設を作った方がよいということもあります。それらも含め、もう一度同じテーブルにのせて、効率化を図るべきものと新たに作るものと、一緒に検討していった方がよいという答えになりそうです。従って、そのためには具体的な予算がすぐに伴わなくてもよいため、選挙後の政策予算については、はっきりした事は言えませんが、多分、来年度の予算には、この調査に関わる具体的な予算はつかないと思われまます。しかし、検討自体は確実に内部で継続されることになっています。

木村委員長：よろしいでしょうか。只今の報告についてご意見をいただきましたが、基本的には教育プランの中に、我々が提言した事が反映されているということです。ただし、予算については色々厳しい事情があつて、なかなか思う通りに行かない事もありますが、社会教育委員の会議で話し合ったことも反映されているので、我々社会教育委員のこれからの取り組みも、教育プランをある程度念頭に置きながら、それを具体化していくような流れで進めていく事になろうかと思ひます。

今の話し合いも踏まえて、来年度の社会教育委員としてどう取り組んでいくのかについて、私なりの意見を皆さんにお示しして、それを叩き台にしなが、皆さんの自由なご意見をいただきたいと思ひます。

昨年度と今年度で、まず社会教育委員と学ぶ市民講座を開催しました。これは社会教育委員として、石狩市の社会教育をさらに発展させていくために、石狩市民が今どのような課題を抱えていて、どのようなことを学習しなければならないのかを、社会教育委員自身が知らなければなかなか実現できませんので、市民と共に、今石狩市で抱えている大事な課題について学びました。広い意味で社会教育計画づくりの一環であつたと思ひているのですが、それをさらに社会教育委員の会議として発展させていくためにはどうしたらいいのかという事で、提案を用意しました。

石狩市社会教育委員会議の提案というレジュメを配布しておりますが、私なりに考えたことは、今までは地域を知るための学びでしたが、これからは地域を作る学びというものに一步踏み出してはどうかということです。これを大きな提案として考えていました。これを基に自由に議論していきたいと思ひます。

#### 【木村委員長からの提案内容】

##### 1. 2013年度から2014年度の取組み

- ① 2013年度から2014年度の社会教育委員の会議の取組は、「社会教育委員と共に学ぶ市民講座」(2013～2014年度)も、2014年に行った石狩市教育プランへの提言も、広い意味で社会教育委員の役割とされている「社会教育計画づくり」への取組みでした。
- ② 石狩市の地域課題を自ら考え、学習課題を自ら見つけ出し、市民と共に学ぶ機会を社会教育職員との協働により作り出し、石狩市が抱えている課題や、社会教育が取り組むべき課題について学んできました。

##### 2. 2014年度の社会教育委員会議の課題

- ① これらの学びは、いわば「地域を知る学び」と位置付ける事ができますが、2015年度はこれらの成果から学び、市民が学習を通じて地域づくりの実践に一步踏み出していけるような学習機会を作り出してはどうかと思ひます。
- ② 石狩市は「平成の大合併」を通じて旧石狩市、厚田村、浜益村が合併し、日本海沿いに広がる都市となりました。大都市札幌のベッドタウンとしての性格に加え、過疎と高齢化が進む漁業地域や農村地域を包み込み、新たな地域課題が生じるとともに、それを主体的に解決する事に挑戦する新たな市民のアイデンティティの確立を同時に求められています。

- ③ そのために一昨年から続けてきた「地域を知る学び」に重ねて、市民自らが考え、提案し、参加していくような、「地域を作る学び」として、「社会教育委員と学ぶ市民講座」を基礎に、2つの課題についての参加型学習の場を企画・実施することを提案いたします。
- ④ それは第1に、石狩市民として、厚田や浜益の地域課題を考え、発展の方向を共に提案するようなワークショップを開催することです。第2に、社会教育行政ではなかなかカバーできていない、孤立した高齢者や若者の社会参加を進め、居場所を作るためにはどうしたら良いかを考え合い、提案するワークショップの開催です。それを今後2年間に渡って継続する事業として考えながら、まず2015年度に何に取り組むことができるかを皆さんと話し合いたいと思います。
- ⑤ もちろんこの2つのテーマは、あくまでも木村の私案に過ぎません。もっとこういうテーマがよいのではないかというようなことも是非提案してください。

### 3、ワークショップのテーマについて

#### (1) 厚田、浜益を取り上げる理由

- ① 厚田、浜益区についてワークショップのテーマとするのは、なぜ石狩市では、いしかり市民カレッジが短期間のうちに発展したかが1つの示唆を提供しています。石狩市は花川地区などに札幌市を職場とする人たちが多く住む団地造成が行われ、今、そこに住む人たちが職場をリタイアして、いわば定時制市民から全日制市民となり、あらためて自分が暮らす石狩市の歴史や自然のことなどについて学んで、充実したシニアライフを送りたいと考える人たちが多いことが、いしかり市民カレッジを発展させる要因の一つになっていると思われます。もちろん彼らは、できれば石狩市のために自分の経験や知識・技術を役立てたいと考えている方たちだと思います。そういう中で、日本海沿岸に発達した厚田、浜益が石狩市として加わったのですから、彼らは厚田、浜益に行って色々見てみたい、知りたい、地域づくりに関わってお手伝いをしたいと考えているはずです。
- ② 厚田・浜益区が加わったという事は、札幌市とのアクセスに関心が向かいがちであった市民の関心の変化も生じさせています。過疎と高齢化が進む一方で農業と漁業が営まれ、それらを資源とする関連産業や美しい自然とを結び付けた観光業など、生活の視点だけではなく、石狩市の産業をどう発展させていくのか、人々の就業と自然の中での豊かな暮らしをどのように結び付けるのかという、新たな学習課題を生み出しています。
- ③ 一方、厚田、浜益でもともと暮らしてきた人々は、旧石狩市のことをどのように考えているのでしょうか。もしかしたら、自分たちの地域の発展は、旧石狩市地区は頼りにせず、札幌や首都圏などの大都市の住民との直接の連携を重視しているかもしれません。それは新しい石狩市民としての統合を進め、アイデンティティを確立する上では解決すべき課題だと思います。旧石狩市に住む市民の知恵を、厚田、浜益の地域づくりに活かすという、それぞれの地域の市民が相互に学び合う環境づくりをしていくことが、石狩市の社会教育の重要な課題のひとつです。

木村委員長：ここまで書いて、本当は高齢者と若者の居場所づくりについてももう少し書こうと思いました。特に勤労青年について考えると、例えば高校生が就職・進学を考えた時に、石狩にずっと住みたいと思っているのかなど、あまりよく分かってないのです。

札幌市西区の西町でまちづくりセンターが新築されました。札幌市は福まち拠点と呼んでいます。町内会などが高齢化しており、若い人たちにもっと参加してもらいたいとのことから、高齢者と若い人達にどうやって拠点に集まってもらうかというワークショップを、連合町内会や、社会福祉協議会の人たちと一緒に3月2日に開催するのですが、多分、全道どこの町でも、お年寄りの孤立の問題と若い人の参画という問題は共通しています。しかし、私たちの取り組みでは、すぐにワークショップを開くというより、今までやってきたように、その実態を少し関係者から聞いてからの方がいいかもしれません。もしかすると、厚田、浜益については、平成27年度のうちにワークショップができるかもしれませんが、高齢者と若者の課題については、平成27年度は、実態を知るところをねらいとして、平成28年にワークショップをする方向で考えてもいいかもしれません。

勿論、社会教育委員の任期の関係もありますが、そのように考えてはいかがでしょうか。そのためには、今まで取り組んでいただいたように、厚田、浜益のことを考えるグループと、高齢者と若者の居場所づくりを考えるグループの2つに、委員の皆さんを分けて、ワーキンググループのような形でどのようなことに取り組めるのかを考える。目標としては、厚田、浜益については平成27年度に、若者・高齢者は、平成28年度、可能であれば平成27年度に実施する方向で進めるとというのが私からの提案です。

その方向で考えると、これはもうただ知るだけではなくて、厚田、浜益をどうすればいいのか、お年寄りにはこういう事が必要ではないかという議論を、市民の皆さんと一緒に考え合って提案するような学びの場を作ることが必要です。そのため、今まで以上に、市役所の他部局などとの行政の連携をきちんと進めないと、社会教育が勝手な事をやっていると言われますし、あまり実質的な結果に結び付かなければ、ただやりっぱなしになってしまいます。今までも社会教育関係職員の方たちは、一昨年、昨年の講座を実現するために一生懸命、色々調整して下さったり、講座の報告者の方たちにお願ひしたりと、大変頑張っていたいただいたことを承知しながらも、さらなる取り組みを行うことが可能なのかについて考えたいと思います。自ずと、社会教育関係職員の方々に期待することは益々大きくなります。

社会教育が大事であることを、市民の方たちや他の行政の方にも理解してもらって、少しでも予算をつけようと思ってもらうためには、社会教育委員の仕事も大事ですが、社会教育関係職員がどのような役割を果たしているか、皆さんにわかるように仕事をしてもらうという事が大切です。今までは、職員の方たちにお任せする部分があったと思いますが、これからはもう少し、職員の方たちも積極的に、自分たちはこんな役割を果たしました、と言える場面を作るような進め方をしたいと思います。

この取組をすると、おそらく会議の回数も増えますし、実際に事業をするには予算がかかります。残念ながら予算は芳しい結果ではなかったかもしれませんが。今は社会教育にはなかなか予算がつかずらくなっており、大変厳しい状況ですが、例えば他の市長部局の事業と連携する方法もあると思います。実は、地域おこし協力隊や、彼らに協力している北大の先生などと話をしております、石狩市の市長部局に関わっている北大の先生たちに呼びかけて、ネットワークを作る方法もあります。先生方は、自分の研究予算を持っているので、関心を持っていただければ、手弁当でも関わってくれるかもしれませんし、先程の北大の先生も、すごく良いことなので、できることがあれば手伝う、と言ってきています。そういった方法も考えられるのではないかと思います。

そして、重要なのはテーマですが、今提案しているのは、私が大事な観点であり、かつ取り組めば面白いのではないかと思ったテーマですので、皆さんが他に取り組んでみたい、必要だ、という課題があればご意見をお願いします。

高橋（美）委員：どちらも面白いと思います。両方ともやりたいですね。私の地域の高齢者クラブで、市の高齢者の芸能発表会に出るために、4月から合唱練習を始めます。また、去年の6月から会館で集まって歌声をやっているのですが、病気があって声がよく出ない方など、色々なお年寄りの方たちが結構集まってきました。自分で歩ける人だけではなく、車に乗せて何人かも乗合で来ています。1カ月に1回ですが、楽しく歌ったり喋ったりする活動もスタートしていて、地域の色々な人との繋がりができつつあります。これとは別に、厚田、浜益でコンサートを開いてみたいと思いますし、両方ともやりたいという気持ちです。

木村委員長：積極的なご意見、ありがとうございます。

古村委員：厚田に陶磁器を焼く窯がありませんでしたか。

木村委員長：汐里焼の作品を作っている方がいらっしゃいますね。

高橋（た）委員：確かにいらっしゃいますが、今は窯が大変です。薪で焚く焼き窯なのですが、古い窯なのであまりたくさんは焼けません。私は望来中学校だったので、昔は子ども達にも教えてくれて、一緒に窯で焼くなどして、色々な事をやらせてもらいました。しかし、私が転勤で厚田に戻ってきってから、厚田小の子ども達にも、とお願いしたところ、窯の状態が悪く手が広げられないということでした。

木村委員長：市民の人たちがそこで体験をする、というようなことは難しいですね。ワークショップの内容についての議論になっていますが、2つのテーマについて詰めていただく必要もあり、今日は案として示しているのでもっと先に取り組むべき課題などがあればお願いします。

大橋副委員長：社会教育委員と学ぶ市民講座では、厚田も浜益も実際は、地域協議会の方々が中心となって、講師として一緒に担当してくれました。講座を開いてみて、課題はわかったのですが、やはりその人たちと一緒に、もう一步踏み込んで、具体的にどうすれば良いのかという方向で考えることは、とても大事だと思います。折角あのような場で学べたので、きっと講師の佐藤さんや浜益の皆さんと一緒に、具体的にどうするのかと考えていく方向が大事なのだらうと思います。

山田委員：なかなか難しい問題だと思います。私は今、市民カレッジをやっていますが、私は、市民カレッジが目指すものは、究極的には市民が住みたくなるようなまちづくりだと考えています。それが常に原点にあるので、今日の木村先生の提案にある、厚田・浜益を取り上げる理由というのも重要ですが、私は、石狩市の今後は新港にかかっていると思います。石狩湾新港には700社位の企業が集まっていますが、札幌や麻生から新港に人が通勤しており、かつて石狩から札幌に通勤していた頃とは逆の現象が起こっています。この産業というものについては、市民カレッジでも毎年繰り返し取り上げていますが、少子高齢化については、取り組まなければならない問題ではありますが、どうやっても解決しないと思います。知事の公約には必ず出てきますが、石狩もこの先、高齢化率が20%から30%近くまで上がっていくのでしょ。これが現実ですので、どうすれば良いのかと思います。一方で、やはり厚田・浜益のことを知りたいというニーズは市民にはあるので、今年も市民カレッジでは浜益で講座を開催するのですが、受講生を集めるのは大変だと思います。

木村委員長：市民カレッジの取組なども、上手くお互いに支え合えるような方向で、これからの事を考えることも必要ですね。土日など皆が集まりやすい日程で、厚田、浜益に行くか、逆に厚田、浜益の皆さんに来てもらって、石狩でワークショップをするのもよいかもかもしれません。手法はこれから考えていけばよいと思います。地域おこし協力隊の方々がワークショップの実施に前向きですし、浜益の方々は、農業・漁業などの産業を基礎に、もう少し観光を発展させるというような段階までは、なかなかつながりが無く難しいという事情もあるので、上手く一緒に取り組むことで応援してあげられればと思います。教育委員会には社会教育の予算が乏しくても、地域おこし協力隊には少しあったりするのでも、それも手法のひとつです。今、北海道でもそういう動きを支援していますし、北大の観光学の敷田先生と話をしていたら、是非お手伝いしますと仰っていました。教育行政以外にも予算をいただけないかどうか、検討もしたいですね。

山田委員：厚田、浜益を取り上げる場合、やはりその産業を掘り起こして、旧石狩市民にも知ってもらいたいですね。私はよく、石狩市民は新港の企業に就職してほしいと言っているのですが、なかなか就職せず、やはり札幌に行ってしまうのです。

木村委員長：就職したい人がいないのか、難しくてなかなかできないのかのどちらかですね。あるいは、シニアの方は石狩に住んで良かったと思っけていても、もしかすると、若い人は札幌や東京に目が向きがちで、あまり石狩に魅力を感じていないのかもしれないかもしれません。そうだとすると、石狩の魅力をより感じてもらうためにどうすれば良いか、皆で考えていくことが大事だと思います。

高橋（た）委員：先日、北大生達が一週間ほど厚田に泊まっていました。厚田の漁業を手伝いながら、午後は厚田小学校に足を運んで下さり、子ども達の勉強のアシスタントや、放課後の遊び相手をしてくださいました。放課後の行き場がない子もたくさんいるので、グラウンドの雪でいっぱい遊んでもらい、とても充実した顔をして毎日を過ごしていました。

非常にありがたいと思っていますが、厚田では普段遊んでくれる若い人達がいらないのです。そういう人が一時期でもいてくれるのは助かるので、色々な取り組みをセットにするなど、ヒントになるなどと思っていました。その時に、やはり横同士の連携など、調整をうまくやっていく必要があると思いました。

古村委員：北大のどの研究室、サークルなのでしょう。

高橋（た）委員：北大の「土着型サークル いなかっぺ」というサークルです。サークルのメンバーは10人位ですが、そこの人たちが、石狩に行つて体を動かさませんか、遊びませんかと呼びかけて、何十人も集めて入れ替わり立ち替わり来たのです。

木村委員長：ワークショップにそういう学生たちに一緒に参加してもらおうと、地元の人たちも出てみようという流れになるかもしれませんね。

高橋（た）委員：樽川に新しく住宅が建っていて、若い方々がどんどん入ってきていますが、その若い人たちと話す機会がありました。どうして石狩に住むのかと聞いたところ、土地の安さもありましたが、オロロンラインに魅力を感じているという答えが返ってきました。最初は手稲などを考えたようですが、安さも理由になり、石狩に住んでみたいとのことでした。オロロンラインに魅力を感じていたお父さんに、ニシン漁のビデオを見せたところ、とても喜んで、冬道の心配をしながらも見に行きました。今は防風柵もできて、すぐ行きやすくなり、そういう魅力を感じている人たちもいるので、もっと呼び寄せる宣伝はできないだろうかと思いました。

木村委員長：ワークショップの中身に入れたいですね。

相馬委員：個人的には委員長のテーマは最高だと思います。私の個人的な見方では、地域おこし協力隊、地域協議会、支所の職員、それらの関わりを浜益区全体で考えていく必要があると思います。今、浜益区の人口はおそらく1,500人位ですが、地域おこし協力隊が来ていることが、あまり知られていないような気がしています。地域おこし協力隊は一生懸命、各地域に行つてアイデアを考えて、住民と一緒に取り組んでおり、活動内容も毎月新聞にして全戸配布しています。一生懸命やろうとしているのですが、地域住民がどれだけ関心を持っているかという点、私個人としては、まだあまりないのではないかと考えています。その流れを、支所や地域協議会、教育委員会、私ども社会教育委員、色々な社会教育団体などがもっと連携を取り、一緒に問題を提起しながら、どういう事をやるべきか取り組んでいくべきだと思います。全体的に網羅して考えただけでは、なかなか前に進まないと思います。

そういった役割を持つ人はいると思いますから、連携をうまくとり、具体的なテーマを出しながら、一つずつ、これはやりましょう、こうしましょう、と話し合いができる場所を作りながら進めていけば、区民も少しずつ、色々な取組がされている事に気づいて、自分達も参加したいという意識を持ってくれるような気がします。そのためには、個人個人が具体的な考え方を持って、同じテーブルに座る形を作ると良いのではないのでしょうか。

浜益では、奥さん方が5～6人のグループで集まることはありません。場所はあるのですが、集まろうとする意識がないのです。個々が好きな行動は取っていますが、その5人で色々な話し合いをすることはありません。雑談ぐらいしかしません。浜益には施設があります。温泉も、スポーツセ

ンターもありますが、宝の持ち腐れになっています。それらの施設等を活用しながら、3人でも4人でも、いかに地域住民が足を出して集まるかが重要です。誰かが間に立って、数人でも誘って色々な話をする。予めテーマを持って始めるのではなく、色々な話をしているうちに、区民がどういうことを望んでいるのか理解できるようになるのではと思います。そういう発想でなければ前に進んでいかないと思います。

木村委員長：ありがとうございます。そろそろ予定の時間になりますが、今日だけではまとまらないと思います。あまり反対意見はありませんでしたが、新港の問題もあるという事には、私は気がついていませんでした。一方で、新港はどちらかというと企業の問題の側面が大きく、住民が何か行動を起こすという事ではないのではと思います。ただし、石狩の産業という側面で考えると、何か取り組めることがあるかもしれません。もう少し意見をいただき、それを踏まえて新年度の第1回目の会議までに案を練り上げて、来年度以降どのようにしていくかを決めたいと思いますので、さらに皆さんのご意見をいただければと思います。

片山委員：今回のワークショップのテーマの高齢者と若者の居場所については、とても興味深いと思うのですが、私は石狩で仕事をするまでは札幌の学校に通っていたこともあり、厚田、浜益については、石狩に住んでいても少し遠い存在のように感じていました。先程、山田委員がおっしゃった、何故石狩で働かないのかという課題については、石狩湾新港では産業が栄えていて企業が多くある、というような地元の企業の情報などは、私の年代で石狩から札幌に通学していた環境では、ほとんど知られていなかったと思います。『石狩ではどこの飲食店が美味しいの』という話題になった時、答えられなかった経験もあります。石狩に住んでいながらも、知らなかったのです。厚田、浜益に特化するのもよいのですが、新港や樽川地区など、もっと石狩市全体について考えていくワークショップにできれば、興味を持ってくれる市民が増えていくのではないかと思います。

木村委員長：ありがとうございます。

石井委員：花川地区に住んでいる方々は、自分の住んでいる街だけれど、石狩の事をよくわかっていないのではないかと感じます。私は買い物などで時間ができた時に、あそこのお店はいいよ、と聞いて買いに行くと初めて、それが地元産だったことを知ることがあります。また、石狩には農業も漁業もあることは分かっていますが、石狩湾で主にどのような魚が獲れるのか、石狩にはどのような美味しい農産物があるのか、あまりよく知りません。ワークショップをやるのならば、厚田、浜益の方々と一緒にやると、それぞれの場所のことをお互いに理解し合えていいのではないかと思います。そのような取り組みに、若い学生さんを始め、色々な人に参加してもらって、若者と市民と社会教育委員とで一緒にできれば良いのではないのでしょうか。

木村委員長：ありがとうございます。厚田、浜益から少し視点を広げて、石狩の農業、漁業というように考えてみるといいですね。

高橋（美）委員：私もその案に賛成です。厚田・浜益に視点が飛んでいきがちですが、石狩には八幡、高岡、生振など、花川以外の地域も色々ありますから、全地域を含むようにすればよいと思います。

木村委員長：そうですね。私も考えてみたいと思います。予算など、色々なことを考えた上での提案ですので、網羅しようとするのが難しくはなりますが、確かに皆さんからのご意見は大事なことです。考えたいと思います。ワークショップの取組自体については、反対意見はありませんでしたので、次年度の第1回目の会議までに皆さんに提案をして、一緒に楽しく取り組みたいと思います。どうもありがとうございました。

#### 4、その他

- (1) 社会教育委員と学ぶ市民講座（浜益区）報告書について
- (2) 地域おこし協力隊活動報告会（浜益区）について
- (3) 平成 29 年度全国社会教育研究大会（札幌市）について
- (4) 平成 27 年度第 1 回社会教育委員の会議の日程について

西山社会教育主事：【概要について説明】

- (5) 平成 26 年度生涯学習計画セミナーについて

木村委員長：【概要について説明】

百井部長：皆さんの任期は2年でございますが、年度では今日が1年間の最後になります。相当ご苦勞は多いこととは思いますが、主体的に色々な事を進めていただいていることに、本当に感謝しております。まさにこういった場が社会教育なのだと、今日はあらためて思いました。

予算的には非常に厳しい中にあり、新年度の組織等については正確には申し上げられませんが、教育委員会は社会教育をどうするのかという点では、皆様から、石狩は社会教育をやっている、と組織的に見てわかるような事を、4月から実現したいと思っておりますので、新年度が始まった時のご期待をいただきながら、また来年度宜しくお願い致します。本当に1年間ありがとうございました。

木村委員長：それでは、これで平成 26 年度第 3 回社会教育委員の会議を終わります。

議事録は上記のとおりであることを認めます。

平成 27 年 3 月 23 日

石狩市社会教育委員の会議 委員長 木村 純